

栄光の架橋

先日の進路説明会において、保護者の皆さんには説明したのですが、生徒の皆さんにもよく理解してもらいたいと思います。

■推薦入試について

推薦入学の制度がある学校(学科・コース)

①公立高校 全日制(道立・市立)

- ・専門教育を主とする学科のうち、農業、水産業に関する学科 募集人数の100%程度まで
- ・専門教育を主とする学科 募集定員の50%程度まで
例…清田(グローバル) 平岸(デザイン) 旭丘(数理データサイエンス科) 東商 国際情報 三笠など
- ・総合学科 募集人数の50%程度まで 例…厚別 石狩翔陽
- ・普通科 募集人数の20%程度まで

例…旭丘 清田 藻岩 新川 白石 啓成 大麻 北広島 真栄など

②私立高校 全日制 ・ほぼ全ての私立高校に推薦制度があります。

③高等専門学校 ・旭川高専 釧路高専 苫小牧高専 函館高専 定員の50%程度まで

推薦基準(すべての項目をみたす生徒)が推薦生徒になることができます。

青葉中の中でも、特に素晴らしい実績を積み重ねており、高校でも常に一生懸命努力し活躍することを青葉中の校長先生はじめ、全ての先生方が保証できる生徒に対して「学校推薦」をします。

そのためには次の要件を全てみたさなければなりません。

- 1 令和4年3月に本校を卒業する見込みの生徒
- 2 本人および保護者がともに希望していること
- 3 出願する動機及び理由が明確である生徒

その高校を希望する理由と一般受検(験)ではなく推薦受検(験)を特に希望する理由をしっかりともっていません。

4 当該学科に対する適性、興味・関心及び学習意欲を有する生徒であること

自分の持っている能力や特性が何であり、それを高校生活でどのようにいかしていくのか、将来の進路の目標などをしっかりともっていることが必要です。

5 推薦を受けるのにふさわしい学校生活を送っている生徒

社会や学校の秩序やルールを守り、学習活動、生徒会や学級活動、部活動などに意欲的に取り組んでおり進学後も様々な活動に意欲的に取り組むことが期待できる生徒。

6 各高等学校の示す条件を満たしている生徒

高校の生活行動面・学習面で望まれる要件を満たしていることが推薦の必須条件となります。※公立高校は推薦の要件、私立高校等は募集要項にある条件を満たすと判断されることが必要です。

7 一般入試を受けても、十分に合格するだけの学力を有している生徒

学力において、一般入試を受けても十分に合格する学力があり、進学後も将来の進路に目標をもち、意欲的に学習に取り組むことが期待できる生徒。

8 推薦委員会が推薦し、学校長がこれを認めた生徒

※自己推薦は一般推薦と区別され出願者の意志のみで希望できます。

これらの基準を設けた理由としては、「高校へ進学した生徒が、その高校の学習環境で適切に過ごすことができること」が考え方の基本にあります。勉強が難しすぎてついていけないようでは、高校生活が行き詰まってしまう。推薦受験の場合、通常、学力検査は行いません。それは、中学校がその実力を保証しているからです。その学校の中で最低でも中程度の力が必要です。一般受検するときには何とか合格するといったレベルでは難易度が増していく高校の学習に不安が残ります。

また、適切な生活習慣が身につけていなければ、やはり高校生活は長続きしません。学習面・生活面の両面で、しっかりと高校生活を送ることができると思われるような「これまでの実績」が必要です。

推薦入学枠をもつ公立高校には、「推薦の要件（志望してほしい生徒像）」があります。また、私立高校では、主に「学業での推薦」（一般推薦などと呼ばれる）と、「部活動や諸活動の実績での推薦」（クラブ推薦や特別推薦と呼ばれる）に分かれます。それぞれ求めている生徒像や入学後に要求されることについて、主に要項に記載があり、本人・保護者ともによく理解して臨んでいただく必要があります。

推薦を受けるまでの手順 ※日程に関しては変更の可能性もあります。

①保護者へ進路説明会(11月2日〔火〕)及び生徒には学活(11月上旬)で推薦についての説明をします。

②推薦依頼(生徒本人から)

i) 希望者は、申し込み前に担任との良く相談をします。

ii) 相談申し込み期間…11月5日〔金〕～15日〔月〕(17日(水)最後の進路希望調査〆切り)

担任の先生と十分に話し合ってください。推薦受検が可能かどうか一緒に考えましょう。

可能な人だけに依頼書を配付します。(依頼書を作成するのも労力が必要です。推薦書は可能な生徒と担任が相談しながら作成します)

※推薦受検を学校側から提案することはありません。話し合った結果は保護者の方にも連絡します。

③出願先高校への進学希望理由や推薦を希望する理由等を含む「推薦依頼書(保護者記入欄あり)」の提出
11月26日〔金〕〆切り

④推薦委員会での検討(12月2日〔木]) ⑤学校長による面接(12月10日〔金〕～16日〔木])

⑥推薦の可否の決定・通知(12月中)

◆推薦を受けるためには担任教師、学年教師、推薦委員会の審査を受け、最終的に学校長の判断で決まります。推薦を受ける生徒は、中学校卒業までの間はもちろんのこと、進学後も推薦を受けて入学したのだという強い自覚をもって生活することや学習面での相応の努力が必要です。推薦は「試験がないから…」「受検の機会を増やすため」「入試で苦勞したくない、させたくない」「早く決めたい」というような発想で希望するものではないことを理解していただきたいと思います。推薦受検者は受験期の最後の学習での追い込みもどうしても不足してしまいます。公立高校の推薦入試について、これはその志望校に誇りを持って入学したい人向けですが、条件は厳しいです。公立推薦においては特に・・・入学後何か特典があるかということはありません。

公立高校「推薦選抜」の流れ(推薦可となった場合)

①願書受付について

公立高校の推薦選抜の願書受付は一般選抜と同じです。願書は2学期末に配布します。冬休み中に、市立の場合、金融機関で入学検定料の納入を、道立の場合は収入証紙を購入し、貼らずに提出します。

②出願状況の発表と検査期日(試験日)

1月26日〔水〕10:00に出願状況が発表されますが、一般受検のように出願変更はできません。

検査日は2月10日〔木〕です。

③「合格内定」を受けた場合、「入学確約書」を高校側に送付

3月16日〔水〕正式な合格発表(一般入試と同じ)

④「再出願」について

公立高校の推薦受検で合格内定が得られなかった場合、推薦受検した高校と全く関係なく、どの高校、どの課程、どの学科でも出願をし直すことができます。このことを「再出願」といいます。

ただし、面接を欠席した場合や、合格内定後に「入学確約書」を提出しなかった場合は、再出願することはできません。また、2次募集の出願もできません。

「再出願」は、保護者の方にご協力いただいて、手続きをしていただくことになります。手続き上の細かい点については、3学期にお知らせします。

それでも僕(私は)という推薦希望(基準クリア)の生徒については、先生方は全力でサポートします。